

1. 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社焼津冷凍 吉田センター新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	-------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5	 ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5	 ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5	 ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	 がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	 ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

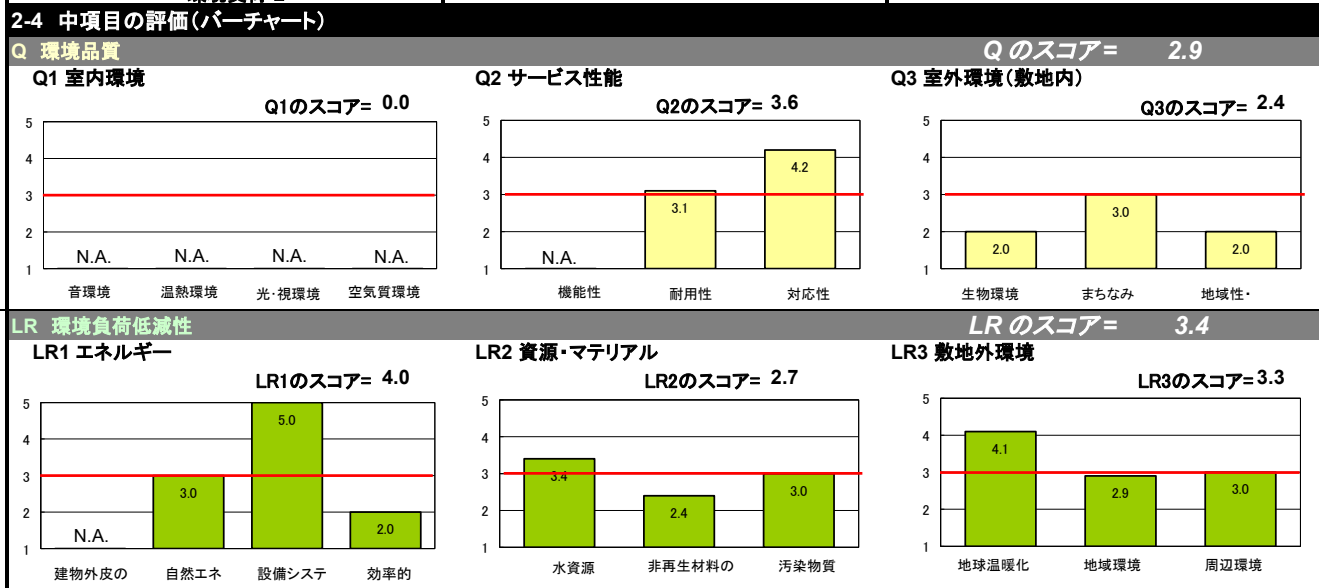
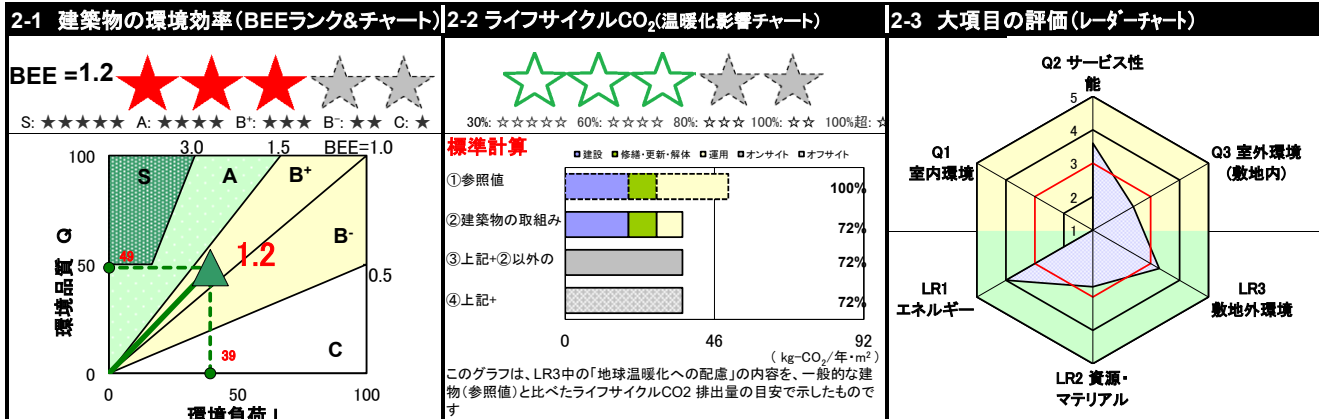
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.8
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い外壁仕上げ材を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数10%以上を示す規模の外構緑化を行っている。 ⑥敷地の65%を空地とし、風の通り道を確保した。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明を採用。 ⑨BEIm=0.36で、一次エネルギー消費量を抑えている。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪給水設備について省水型機器を用いている。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2排出率72%。 ⑮見付面積比を小さくし隣棟間隔を工夫する等、風通しを良くして敷地外への熱の影響を低減している。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰建築基準法に定められた耐震性を有している。 ⑰設計用水平震度1.5KHとし、信頼性の高い支持方法を用いている。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.5
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱天井を高くし、広く感じる空間を計画した。 ⑲建物の階高を高く設定し、ゆとりを持たせた。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑敷地周辺に見通しの良いフェンスを設けて防犯性に配慮した。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.7
	■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥外構緑地指数10%以上を示す規模の外構緑化を行っている。 ⑥敷地の65%を空地とし、風の通り道を確保した。	Q-3 1 2 3 3.2	⑥ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比を小さくし隣棟間隔を工夫する等、風通しを良くして敷地外への熱の影響を低減している。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社焼津冷凍 吉田センター新	階数	地上2F
建設地	静岡県榛原郡吉田町神戸80番1 他2	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	7 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,285 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年11月5日
敷地面積	10,038 m ²	作成者	創元設計
建築面積	3,443 m ²	確認日	2024年11月6日
延床面積	3,596 m ²	確認者	創元設計



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 特になし	
Q1 室内環境 ・評価対象外	Q2 サービス性能 ・高い階高の確保、積載荷重の割増により、対応性に配慮している。 ・耐用年数の長い外壁仕上げ材を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地周囲に視線を遮る弊害物を作らず、見通しの良いフェンスを設けて防犯性に配慮している。 ・敷地の65%を空地とし、風の通り道を確保した。
LR1 エネルギー ・LED照明を積極的に採用し、省エネルギー性能に配慮している。 ・BEIm=0.36で、一次エネルギー消費量を抑えている。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具を採用し、水資源保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・LCCO ₂ 排出率72% ・見付面積比を小さくし隣棟間隔を工夫する等、風通しを良くして敷地外への熱の影響を低減している。 ・燃焼機器を設置せず大気汚染防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される